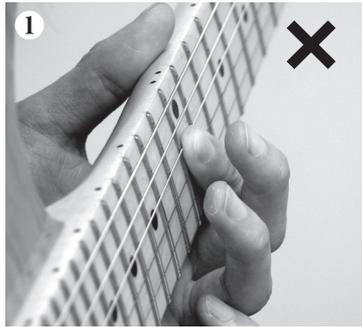


### 注意点1



## 3 & 4 弦 12 フレットの 人差指セーハは禁止!

このフレーズでまず注意してほしいポイントは、人差指での12フレットの押さえ方だ。このフレーズでは、最後まで3 & 4 弦 12 フレットを人差指で押弦し続けるが、ここで3 & 4 弦をセーハしてはいかん! (写真①) ……と断言してみたものの、実際にこのような2本弦を往復するようなフレーズやペンタ系ロック・フレーズだけを弾くのであれば、セーハしても良いこともある。しかし、それでは人差指の押弦フレットが弦によって異なった場合や弦跳びフレーズなどには対応できない。そこであえてこのフレーズを弾く際には、人差指のポジショニングの練習として写真②(これは3弦押弦時の様子)のようにセーハせずに、1音ごとに3 & 4 弦を押さえよう。大変だと思うが、そこは修行ということだ!



人差指が12fしか押さえないとはいえ、3 & 4 弦をセーハし続けてはダメだ。これでは、ほかのフレーズに応用できない。



3 弦 12f を人差指で押弦。常に1音ずつ押弦する癖をつければ、どんなフレットにも移動できるようになるはずだ。

### 注意点2



## ストレッチ時でも常に 次の押弦準備をすべし!

このフレーズを弾く際に、まず注意してもらいたいのが、1小節目4拍目の15フレットと3小節目4拍目の17フレットの押弦だ。ここはリズムが少し変化しているように感じられるので、リズムのズレに注意しよう。慣れるまで1拍4音ずつを1つのセットとして考え、分けながら練習すると良い。続いてのポイントは4小節目のストレッチ・フレーズ。特に1拍目の3弦17フレット押弦(写真⑤)の人差指の位置には注意してもらいたい。小指で弦を押さえると同時に人差指も3弦12フレット上に移動させておくことが大切だ。さらに下のコラムでも詳しく解説するが、4弦から3弦に人差指を移動させた際には、3弦の押弦だけではなく4弦に少し触れるようにして、ミュートを行なうようにしよう。ノイズ対策も忘れずに。



4 弦 14f を中指で押弦。次の人差指の準備もしておこう。



4 弦 12f を人差指で押さえる。小指を3弦上で待機。



3 弦 17f を小指で押弦。人差指は3弦 12f 上に移動。



3 弦 12f を人差指で押弦した際に、隣の4弦にも触れよう。

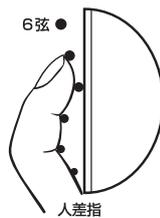
### ~コラム4~

## 地獄の戯れ言

なぜプロ・ギタリストは、ミス・トーンやノイズが少ないきれいな演奏ができるのか? この謎を解く鍵の1つは、左手人差指によるミュートだ。これはバツと見てわからないテクニックなので、まず右図を見てもらいたい。人差指が弦を押さえると同時に隣接する上下の弦に少し触れる。すると隣接弦はミュートされるのだ。実際の例として4弦12フレットを押さえてみる(写真⑦)。5弦を人差指の指先で触れ、さらに写真では見づらいが3弦を腹の部分で触れているのだ。どんなに指が速く動いても、ノイズが多ければ速弾きとは言えない。こういったミュートは、普段から少しずつ心がけて、必ず身につけておこう。

## 左手人差指ミュートができない者は、 速弾きもできない!?

### 図1 人差指によるミュート



5弦は指先で、1~3弦は指の腹でミュートする。



人差指で4弦12fを押弦しつつも、5弦を指先で、3弦を腹の部分でそれぞれミュートしているのがわかるだろう。